

日光鬼怒川の旅 2024



2024年6月

旅のチカラ研究所 植木圭二

5月の下旬、旅友たちと日光鬼怒川に1泊2日の旅をしてきた。旅のテーマは鉄道そして呑み鉄として、東武鉄道の最新鋭列車スペースXとSLに乗ってきた。

■スペースX

昨年夏にデビューした東武鉄道のスペースXという特急列車がある。この列車はパノラマのラウンジを備える豪華列車で、浅草から日光及び鬼怒川を往復している。その特徴は豪華さもあるが、生ビールサーバーが備えられているから生ビール片手に豪華な鉄道旅を楽しめる。

この列車のことを私の旅友であり酒の師でもある“師匠”に話したら、即座に決行が決まった。そしてその師匠に負けず劣らずの酒豪の女旅友チーちゃんとキョーちゃんも加わった。その打ち合わせのために私は4人のLINEグループ“酒豪組合”を作った。

スペースXの先頭車両の20席と後尾車両の7席は広く眺望が良いのでとても人気がある。1カ月前に予約可能になるが、すぐに完売になり予約できない。しかしながら師匠が裏技を駆使して何とか予約してくれた。やはし彼は“単なる酒飲み”ではなかった。感謝、感謝だ。

浅草駅に酒豪、いや集合した私たちは先頭車両のcockピットラウンジに座り、生ビールを注文する。



【cockピットラウンジで生ビールを飲む酒豪組合】

■酒のつまみ

7時50分の発車に合わせて生ビールで乾杯する。そして間もなく列車が動き出す。

この旅の計画時にキョーちゃんが「私、朝食4つ作って行くよ」と言っていたので、彼女が作った立派な弁当が4人の間のテーブルに並べられた。その豪華さに私も師匠たちも感激していると、彼女は「こんなの朝めし前、弁当ではなく“つまみ”だから」と謙遜している。確かにご飯の量が抑えられており、酒のつまみが並んでいる。それは吞兵衛を熟知したメニューで、とにかくグイグイ酒が進むように考えられている。



【キョーちゃんの手作り朝食と生ビール】

酒のつまみ、あるいは肴（さかな）は私にとっては馴染みがある言葉だが、関西の酒飲み連中と酒を飲むと“あて”という言葉を使う。

あては近畿圏だけで使われている言葉で「酒にあてがうおかず」が由来とされている。

ついでに肴は、昔はおかずを菜（な）と呼んでいて、酒と一緒に味わうおかずなので酒菜（さかな）と呼んだ。それに肴という漢字が当てられるようになったらしい。

つまみについては、酒を飲みながら手でつまんで食べることから使われたらしい。

豪華弁当に舌鼓を打って盛り上がっていると、乗車記念プレートを持ったアテンダントが写真撮影のサービスに回って来る。ありがたいサービスなので撮影をお願いする。撮影するアテンダントは羨ましそうに豪華弁当を覗き込んでいった。

■日光の社寺

吞兵衛たちを乗せたスペーシア X が日光に到着する。

日光と言えば世界遺産「日光の社寺」だろう。徳川家康を祀る「東照宮」は誰でも知っているが、東照宮以外の世界遺産を知る人は少ない。実は東照宮の他に「二荒山神社」と「輪王寺」も世界遺産になっている。江戸時代までは神仏習合で一体だったが、明治政府の神仏分離令で無理やりに分けられて二社一寺になった。

私たちはその二荒山神社の神橋（しんきょう）を横目に見て、観光客が多い参道に向かう。この神橋も世界遺産で、橋を渡った参道入口には世界遺産のオブジェがあり、記念撮影をする。

関東に住む私たち酒豪組合員にとって、今さら東照宮の参拝もないだろうと、あまり一般の観光客が行かない輪王寺の付属施設の「大猷院（たいゆういん）」を訪れる。

大猷院は徳川三代将軍家光の廟で、生前の家光が東照宮を現在の豪華絢爛な姿に建て替えた。そして彼の死後、大猷院が建てられた。しかし祖父の家康よりも立派にするなという遺言だったのでミニ東照宮という造りをしており、決して華美ではない。その反面、実に趣がある。



【大猷院の入口 仁王門】

荘厳な二天門をくぐり、趣のある夜叉門の前に大きな灯籠が左右に計 6 本建っている。よく見ると紀州、尾張、水戸の御三家が奉納したと書かれている。確かに紀州の文字がかすかに見てとれる。

他の灯籠も見てみると、日本各地の大名が奉納しており、大名の石高や将軍家との関係で場所や大きさが違う。これは生きた歴史の勉強になってなかなか面白い。



【夜叉門の前の左右に計 6 本の灯籠】

私たちがそんな生きた歴史の勉強をしていると、小学生らしき修学旅行の団が記念撮影をしている。

引率している美人の先生に聞くと、小田原から JR の特別列車を仕立てて昨日から 1 泊 2 日で日光に来ているという。本日は日曜日なのにと驚くが、今ではそんなことは当たり前らしい。それにしても東照宮ではなく、大猷院の参拝とは恐れ入ってしまう。あの美人先生の趣味だろうか。いや東照宮はあまりに混雑しているのと拝観料の違いかもしれない。



【横から見た本殿】

国宝の拝殿と本殿は金箔がふんだんに使われているが、やや剥がれている部分もある。それがかえって家光の謙虚さと歴史を感じさせてくれる。

ここは金の破魔矢が有名だと私が言うと、師匠たちが購入する。それを聞いていた他の参拝者たちも購入している。紹介料を請求したくなるほどの売れ行きになっている。実は金の破魔矢のことは少し前にテレビで紹介していた。

■ホテルニューおおり

今宵は鬼怒川温泉にある「ホテルニューおおり」に泊まる。

おおりグループの宿はとにかく安い。このホテルグループのビジネスモデルは経営難に陥った有名温泉地のホテルや旅館を安く買い取り、独自のノウハウで再生し安く宿泊客に提供する。従ってお世辞にも新しいとは言えないが、食べ放題の夕食にアルコール飲み放題も付いている。

今回の旅行の目的は癒しでもグルメでもなく、酒さえ飲めれば誰からも文句が出ないから、私たちの目的には完全合致している。

私がこのホテルグループの宿に最初に泊まったのが 30 年くらい前で、当時は 1 泊 2 食付で東京からの送迎バスも含めて 4000 円台だったので相当にインパクトがあった。しかし今はその倍くらいの価格になって送迎バスもなくなっている。

コロナ前は関東地方全域で十数店舗あったが、利用客が老人会や年配者グループだったのでコロナの影響をもろに受けて多くの店舗が閉鎖に追い込まれ、今ではこの鬼怒川と塩原、草津の 3 店舗のみになってしまった。それでも温泉と格安にこだわっている。

■SLに乗る

この地域の東武鉄道の売りは蒸気機関車 SL (Steam Locomotive) で、下今市から東武日光、あるいは下今市から鬼怒川温泉まで SL 列車が運行している。時速 20km 位なので自転車よりもやや速い程度で、旅情を感じながら車窓から沿線の景色をゆっくり楽しめる。

鬼怒川温泉の駅前には列車の方向を変える大きな転車台がある。

SL 観光列車に乗るために駅のカフェでビールを飲んでまったりとしていると、転車台に SL がやってきた。そして転車台に乗って 180 度回転して向きを変える。それはもはやイベントになっており、大勢の観光客が写真撮影に興じている。



【転車台の SL】

向きを変えた SL に客車が連結され、私たちはその客車に乗り込む。そしてゆっくりと走り始める。

ここでも女性乗務員が切符の確認や乗車記念プレートを持ち込んで記念の写真撮影をしてくれる。飛行機の CA のようなユニフォームを来ており、彼女たちはアテンダントと呼ばれている。

どうも最近カタカナの職業に人気があるようだ。そんな私も元エンジニアと言い、現在はトラベルライター&トラベルコンサルタントを名乗っている。

私たちがビールで祝杯を挙げているとアテンダントの 1 人が通りかかって、私たちのビールを見て「いいですね」と羨ましそうに言っている。すかさず師匠が「一緒にやらない？」と口説き始める始末だ。そんな師匠とアテンダントのやり取りには見向きもせずにはビーブドランカーの女性陣は飲み続けているから、こちらはこちらでまた凄い。

沿線には何人もの人たちが手を振ってくれている。最初は東武鉄道の社員や関係者だと思っていたが、一般のおじさんおばさんたちも手を振ってくれている。ゆっくり走っているから手を振り易いのかもかもしれないが、なぜ SL が来るのか分かるのだろうか疑問に思っていると、SL は大きな汽笛を時々鳴らして走っている。その汽笛は 3km 先まで届くと車内放送でアテンダントが説明しているから、その汽笛で住民が外に出て手を振ってくれているのだろう。

それにしても住民も含めた地域全体が観光客に「また来てね」とサービスをするのだから素晴らしい。

スペーシア X の旅も良いが、この SL の旅もまた良い。

■帰途

帰りもスペーシア X に乗り込む。往きは最後尾車両だったが、帰りは先頭車両になっているコンパートメント席に座る。この席は定員 4 人でゆったりしており、ドアが閉まる個室なので防音性も高く音漏れが少ない。従って盛大な宴会が催される。ただし生ビールサーバーはこの車両にはないので、私たちは大量にビールやワインを持ち込んでいる。

終点の浅草駅近くになって、最前部の 7 人しか入れないコックピットスイートの席が空いたので記念撮影をさせてもらった。



【コンパートメント席】



【コックピットスイート】

■旅の記録

実施は 2024 年 5 月 26 日（日）～5 月 27 日（月）の 1 泊 2 日、その行程を示す。

- ・ 1 日目 浅草に集合し、7 時 50 分発東武日光行のスペーシア X に乗車、車内で朝食
東武日光に 9 時 39 分到着、日光の大猷院（たいゆういん）と二荒山神社を参拝
ガストで昼食、電車で鬼怒川温泉へ、「ホテルニューおおるり」チェックイン
- ・ 2 日目 9 時 30 分宿を出発、鬼怒川温泉から下今市に SL 乗車し、電車で戻り
16 時 40 分鬼怒川温泉発のスペーシア X 乗車、浅草 18 時 45 分到着し、解散

費用の合計は 1 人当たり約 2 万 4 千円、詳細は以下に示す。

- ・ 旅費 約 12681 円
スペーシア X（浅草→東武日光）コックピットラウンジ 2440 円＋運賃 1393 円
スペーシア X（鬼怒川温泉→浅草）コンパートメント 3940 円＋運賃 1581 円
SL（鬼怒川温泉→下今市）座席指定 520 円＋運賃 261 円
自宅～浅草往復他 約 2000 円
- ・ 宿泊 8730 円 ホテルニューおおるり（1 泊 2 食飲み放題＋入湯税）
- ・ その他 約 3000 円 昼食代や車内ビール代など